「定時制高校　明日への一歩」を見て

定時制高校の現状については、当 HP でも何度か触れたことがある（HP「雑学 BN」のマスコミ等コメント関係（Ⅳ）、2007.08.14.「『学校って何だろう？』の一つの答え」、2008.03.17.「定時制高校に影を落とす格差社会の実態」、書籍等読後感関係（Ⅴ）、2009.09.30.「『若者たち』を読んで」：参照）。

先日、「定時制高校　明日への一歩」と題する番組があった。
先の記事は生徒にスポットを当てたドキュメンタリーものであったが、今回は女教師にスポットを当て取材したものであった。

定時制高校は、元々働く若者に高校教育の機会を与えるために創設されたものであるが、現状は定職に就いたりアルバイトしている生徒は半数程度で、不登校などの理由で全日制高校に進まなかった生徒や、高校を退学した生徒などさまざまな若者が通っているよう。

女教師は、定時制高校の生徒の中には、自分に自信を持てない生徒も少なくないので、その心を癒し自信を取り戻させてこそ学習意欲も向上し、新たな道が開けると考えている。
女教師は授業はゆっくりゆっくり進め、休み時間や放課後には、普段から生徒がどんなことも話せる雰囲気を作るために、職員室で生徒との雑談を楽しむ。
更に、放課後に「ピアサポート（peer support; “対等な支援”）」と呼ばれる課外授業を行い、その活動は若者たちの心のケアに効果がある教育プログラムとして、教育関係者に注目されているとか。
この女教師には、様々な悩みを抱えた生徒が相談にくるが、決して「ああしろ、こうしろ」とは言ず、「そっと生徒に寄り添い見守っていれば、次第に生徒は自ら考え自らの進むべき道を見つける」と体験から云う。

自分は、高校時代に教師からいじめを受けたことを、また、大学等でも自己否定される教官の言葉に傷付いていることを告白・相談してくる学生たちと接したことがある。
それだけに、この女教師のように生徒に真摯に向き合う教師が多ければ不登校や退学する生徒がいなくて済むのだろうが、現実の学校教師の中では数少ないがために、こうした番組が放送されるのだろうなあと、つい思ってしまう。

恐らく、多くの教師は、この女教師の直向きな姿勢を目にしても、教師という専門職の自らを検証するヒントとせずに「定時制高校だからできること…」と、他人事で済まそうとする呟きが聞こえてきそうで、残念……。

阿部幸泰　　（2010 年 2 月 11 日　記）